

「プランゲ文庫雑誌記事索引」を読む —いま、敗戦直後の歌人たちが—

昨二〇〇五年一二月、日本の被占領期における GHQ の検閲資料、プランゲ文庫所蔵雑誌の記事索引が全面公開された。ネット上、登録さえすれば、誰でもアクセスできる。早稲田大学山本武利教授らのプロジェクトによるこのデータベースでは、タイトル・執筆者・雑誌ジャンル・発行地・発行者・雑誌名・発行年月から検索できることになった。そして、検閲の痕跡ある記事・作品欄には注記がある。私は、早速、まず歌人名で検索してみた。斎藤史、阿部静枝、五島美代子、四賀光子などこれまで著作年表や評伝を試みたことのある歌人たちである。いま作成中の著作年表に書き足すべく、あるいはこれまで出会ったことのない文献が出てくることも多いので、少しずつ現物のフィッシュにあたっているところである。雑誌名や記事タイトルにキーワードを打ち込むことによって、主題検索もできなくはない。

データベース構築は並大抵の作業ではない。多くの人の手になるものだから、ミスや見落としもある。それはこれからの利用者がただしていくべきものであろう。

以前は、私も既成の目録や部分的な研究成果をたよりに、断片的にマイクロフィルムによって読んだ。それでも、いろいろのことがわかってきた。これからは、種々の検索を重ねながら、さらにさまざまな情報が得られるのを楽しみにしている。検閲個所の注記に不備があることがあるので、関心のある雑誌は必ずフィッシュの現物を通覧した方がよい。

短歌作品については作者から検索して、名寄せはできる。まさに目次からの情報なので、目次にミスがあれば、そのまま反映してしまう。目次で「欄」ごとにひと括りにされていれば、索引でも、欄の筆頭の執筆者名だけが表示されるので、注意を要する。個々の記事を開くと、各人の題は記事内容や小見出しで表示されることが多い。題と執筆者名がセットでは表れないのが難点である。手がかりになろう。

被占領期における検閲については、戦前の内務省関係の検閲や弾圧に比べて、執筆者や編集・出版者関係の人たちの口は重いのが特徴である。そんな中で、三枝昂之対談集『歌人の原風景—昭和短歌の証言』（2005年）では、かなり力を入れて、意識的に、各歌人に被占領期における検閲について質問を試み、種々の体験や事実を引き出しているのは興味深かった。中でも具体的な作品をあげて語っていたのが近藤芳美だった。「幾組か橋のかたへにいだかれて表情のなき NO を言ふ声」（「埃吹く街」『八雲』一九四七年九月）の一首がずっと気にかかっていたのだ。

折しも、短歌雑誌から近藤芳美の「代表作ではない秀歌」の依頼があった。なかなか手の抜けない、応えるにはむずかしい注文ではある。そこで、GHQ の検閲に引っ掛かったという一首を追ってみることにした。その結果は、『短歌』6月号をご覧ください。